

第2章 由利本荘市の 概要

第1節 自然的特性

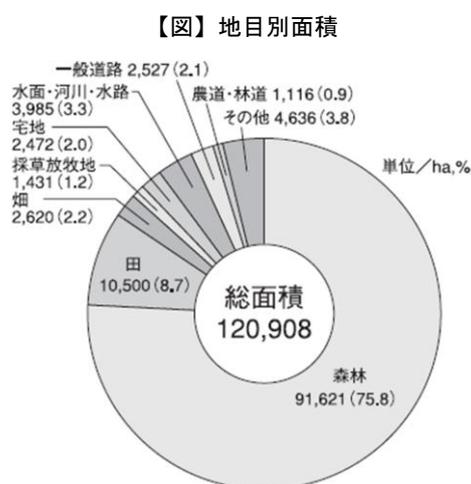
第2節 社会的特性

第1節 自然的特性

本市は秋田県南西部に位置し、北は秋田市、南はにかほ市、東は大仙市、横手市、湯沢市、羽後町に隣接し、南西に標高 2,236m の秀峰鳥海山、東に出羽丘陵を背し、市の中央部を一級河川子吉川が貫流して日本海にそそいでいます。

また、鳥海山と出羽丘陵に接する山間地帯、子吉川流域地帯、日本海に面した海岸平野地帯の3地帯から構成され、山、川、海の美しい自然に恵まれた地域です。

面積は 120,908ha（東西に約 32.3km、南北に約 64.7km）で秋田県の 10.7% を占め、県内一の面積となっています。主な土地の利用は山林が 75.8%（91,621ha）で総面積の大半を占め、次いで田が 8.7%（10,500ha）、畑が 2.2%（2,620ha）、市街地等の宅地は 2.0%（2,472ha）となっており、山林・田畑などの自然的土地利用が全体の9割近くを占めています。



（資料：県利用区分別土地利用状況 平成 21 年 10 月 1 日）

気候は海岸部と山間部では気候条件が異なり、海岸部（本荘地域）では年平均気温 12.1℃、年間降水量 1,848.7mm、最深積雪 42.3cm、山間部（矢島地域）では年平均気温 11.4℃、年間降水量 2,268.9mm、最深積雪 112.9cm と、特に冬期における積雪量に差が見られます。

【表】年間気象データ

区分	平均気温	年間降水量	最深積雪	年間日照時間
本荘地域	12.1℃	1,848.7mm	42.3cm	1,426.2 時間
矢島地域	11.4℃	2,268.9mm	112.9cm	1,406.2 時間

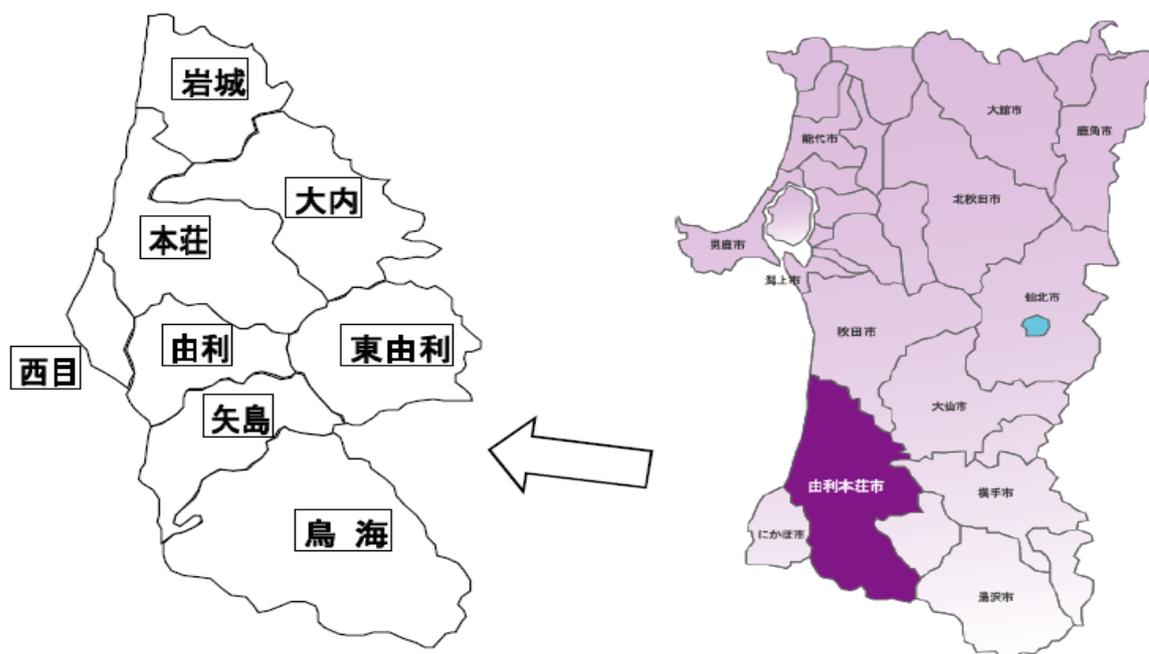
（資料：気象庁気象統計情報 平成 14 年～平成 23 年の平均値）

第2節 社会的特性

江戸時代、本市中心市街地は北前船の寄港地であり、これに合わせ、子吉川は舟運により上流域と下流域を結ぶ物資輸送の大動脈となり、流域は食料生産供給地として栄えました。また、市街地は日本海に沿って南北を結ぶ羽州浜街道と内陸奥羽各街道との結節点として、人や文化を伝える陸路の要衝でもありました。

現在、その街道は太平洋側各地方都市との連携軸となり、物流の大動脈となっています。こうした地勢の中、同じ文化や歴史によって栄えた近隣市町は、平成17年3月に本荘市、矢島町、岩城町、由利町、大内町、東由利町、西目町、鳥海町が広域合併し、由利本荘市として新たなスタートを切りました。新市は、新しい時代に対応した一体的なまちづくりのため、一体感の醸成や高度情報社会への対応を目的とし、CATVの整備や光ファイバーによる地域イントラネット整備を展開するとともに、テレビ難視聴対策や携帯電話不感地帯の解消にも力を注ぎ、格差のない情報・通信サービスが受けられる環境づくりに努めています。

【図】由利本荘市の位置図



平成24年3月31日現在で人口は84,712人、世帯数は30,203世帯となっており、生産年齢層の労働移動による社会減に加え出生率の低下による自然減により人口は減少傾向しつつありますが、世帯数は年々増加し核家族化への傾向が見られます。

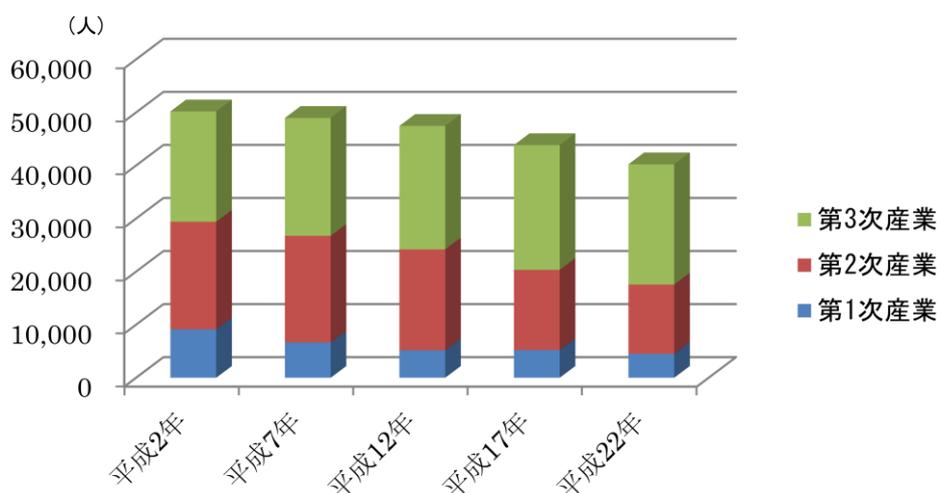
【表】人口・世帯数の推移

年次	世帯数	総人口	0～14歳	15～64歳	65歳以上	高齢人口比率
平成2年	24,994	95,489	17,966	62,347	15,154	15.9
平成7年	26,260	94,410	15,560	59,959	18,860	20.0
平成12年	27,805	92,843	13,316	57,360	22,162	23.9
平成17年	28,564	89,555	11,280	54,011	24,197	27.0
平成22年	30,195	86,357	10,104	51,565	24,688	28.6

(資料：国勢調査)

産業別就業人口割合では、第1次産業は平成2年度の18.1%に比べ平成22年度は11.0%と減少傾向にあり、大部分は農林業に従事しています。また、漁業従事者は全体の0.01%にも満たない従事者数になっています。第2次産業は建設・製造業が大半ですが、平成2年度の40.4%に比べ平成22年度は32.0%と減少傾向にあります。また、第3次産業は全体の55.6%と最も多く就業人口も増加傾向にあり、卸売・小売業に次いで医療・福祉の従事者割合が高くなっています。

【図】産業別就業人口の推移



(資料：国勢調査)

本市は地域によって異なる産業形態を有しており、中心地域では電子部品、デバイス製造及び電気機械器具製造業を中心とする企業が集積しているほか、大型小売店などが展開しています。さらには、秋田県立大学システム科学技術学部が高度教育研究機関としての役割を果たし、産学官による連携も行われています。

農業や畜産業については、各地域の特長を活かした経営が行われてきており、基幹産業である稲作のほか、秋田由利牛や鳥海りんどうなどの地域ブランドの開発や生産をはじめ、第6次産業の促進にも積極的に取り組んでいます。農業従事者数や経営耕地面積は年々減少しており、今後は担い手の育成が課題とされています。

【表】農業従事者・経営面積の推移

年次	総農家数			経営耕地総面積			
	(戸)	販売農家	自給的農家	販売農家 (ha)	田	畑	樹園地
1995年	6,987	6,239	748	11,305	9,966	1,242	96
2000年	6,328	5,577	751	10,750	9,587	1,088	78
2005年	5,802	4,975	827	10,067	9,222	779	65
2010年	5,259	4,399	860	9,962	9,101	797	64

(資料：農林業センサス)

本市面積の大半は山林であり、森林蓄積面積において全国第9位、民有林面積も全国第7位と広大な面積の保有市ではありますが、木材価格の低下等により林業を取り巻く環境は厳しく、また、林道の整備や残材の搬出コスト等の問題により、多くは切り捨て間伐となっています。

観光面においては、自然や歴史を語り継ぐ数々の観光スポットが点在しており、四季折々のアウトドアレジャーや歴史探訪など、多くの観光資源を有しています。鳥海国立公園を中心とした鳥海高原は、ブナの森や湧き出る清水、^{たつがはら}竜ヶ原湿原や^{くわのきだい}桑ノ木台湿原、日本の滝百選の名瀑法体の滝^{ほったい}などがあり、近年は映画のロケ地にも利用されるなど注目されています。また、藩政期には本荘地域は六郷氏の本荘藩、岩城地域は亀田藩の城下町、矢島地域は矢島藩生駒氏の城下町として栄えたこれらのエリアには、永泉寺^{ようせんじ}や本荘

公園、亀田城佐藤^{やそはち}八十八美術館、龍門寺、折渡^{おりわた}千体地藏など、歴史にちなんだスポットが数多く残されています。